

平成20年度 水源地域対策アドバイザー派遣制度報告書

1. 市町村の概要

(1) 市町村名

北海道平取町

(2) 派遣対象地域

平取ダム地域周辺

(3) 町の現状

平取町は北海道日高地方の西端に位置し、総面積 743.16 ㎢ で東西 52.8 km、南北 41.1 km とやや三角形に似た形で総面積の 82% が山林で占められており、日高山脈の最高峰「幌尻岳」や日本一の清流「沙流川」、日本一の広さを誇る「すずらん群生地」など豊かな自然に恵まれた町である。夏は涼しく積雪は少なく、北海道では比較的温暖で過ごしやすい気候となっている。

農業を基幹産業とし、「ニシパの恋人」というブランド名のトマトをはじめ、黒毛和牛や米、きゅうりなどの農作物を生産している。また、昔からアイヌ民族の方が多く暮らしており、アイヌ文化を伝承、保存するとともにさまざまな体験活動を行っている。

当町の人口は、13,387 人（昭和 35 年国勢調査）をピークにその後減少し、現在約 5,800 人と過疎化が進行している。

平取ダムは、二風谷ダムとの 2 つの多目的ダムを建設する沙流川総合開発事業で整備される予定のダムである。沙流川総合開発事業は、「洪水調整」「流水の正常な機能の維持」「水道用水の供給」「発電」を目的に、昭和 57 年度に事業着手している。二風谷ダムは、昭和 61 年 9 月に本体工事に着手、平成 8 年 6 月に試験湛水を完了して平成 10 年 4 月から管理に移行した。現在、平取ダム本体工事着手に向け、付替え道路の整備や環境保全調査等を実施しており、平成 28 年度の完成を予定している。

(4) 水源地域の現状と課題

平取ダムの水源地域である芽生、豊糠地区は、少子高齢化にともなう人口減少による過疎化が進んでいるが、それぞれ「すずらん群生地」と「幌尻岳」という町の観光資源があり、すずらんの開花時期や登山シーズンには毎年多くの観光客が訪れている。しかし、年間を通しての観光資源に乏しいため、それ以外は訪れる人もほとんどない状況である。

こうしたなか、平成 20 年 3 月豊糠小中学校が閉校となり、その学校施設の有効利用による平取ダム周辺地域の振興対策が求められている。また、平取ダム建設地周辺には、重要文化的景観に選定されている区域があり、その活用と景観の保全、整備も今後の課題となっている。



(5) 希望するアドバイス内容

水源地域の住民などで結成した「平取ダム水源地域振興協議会」を中心に、平取ダムの水源地域の振興と活性化を図るため、必要な施策や事業を計画するとともに、その実現に向けた活動を行うために、次の項目の取り組みについてアドバイスを希望した。

①旧豊糠小中学校校舎の有効活用による地域づくり

- ・幌尻岳登山の拠点としての施設整備について
- ・年間をとおしての施設運営について
- ・教職員住宅の活用について
- ・体験学習のメニューについて

②すずらん群生地や重要文化的景観とダム湖などの観光資源を活かした地域振興策

- ・すずらん群生地を活用した新たな観光資源の開発について
- ・重要文化的景観の有効活用について
- ・ダム湖と周辺地域が連携した観光産業の創出について

③農林業振興による地域活性化

- ・新規就農者や季節移住による農業体験について
- ・グリーンツーリズムによる農家民宿について
- ・農産物や山菜等を活用した新たな特産品の開発について

2. 水源地域対策アドバイザー派遣概要

(1) 第1回水源地域対策アドバイザー派遣制度事前検討会概要

と き 平成20年10月7日(火) 午後3時30分～5時

ところ 旧豊糠小中学校

◇出席者

- ・アドバイザー：株式会社南信州観光公社 高橋 充 取締役支配人
- ・随行者：国土交通省水源地域対策課 斉藤一雅 課長
- ・平取ダム水源地域振興協議会：
相田芳訓、丹野信一、山田喜代太、元起昭夫、渡辺隆之、熊谷厚子、野間克実
- ・水源地域振興対策検討プロジェクト：
鈴木茂生涯学習課長、鈴木振内支所長、市川貫気別支所長、佐藤生涯学習課主幹
- ・事務局：遠藤町づくり振興課長、津川町づくり振興課主幹、三浦企画係主査

◇主な議題

- ・平取町の概要について
- ・水源地域の現状と希望アドバイス内容について

◇会議録(概要)

遠藤課長 (開会あいさつ)

10月1日の協議会でお話した国土交通省の派遣アドバイザー制度で、主にこの豊糠小中学校の廃校利用を中心に検討していきたい。

○アドバイザー及び随行者紹介

- ・株式会社南信州観光公社取締役支配人 高橋 充さん
- ・国土交通省水源地域対策課長 斉藤 一雅さん

豊糠小中学校の利活用と平取ダムの水源地域の振興方策や整備についてアドバイスを受けていきたい。

(出席者紹介) 平取ダム水源地域振興協議会委員・水源地域振興対策検討プロジェクトチーム

津川主幹 ○平取町の概要説明について

それぞれ説明済みのため省略する。

○水源地域の現状と課題、希望アドバイス内容について

- ・水源地域の芽生、豊糠地区は少子高齢化にともなう人口減少で過疎化が進んでいるが、すずらん群生地と幌尻岳という観光資源があり、時期には多くの観光客が訪れているが、その他の観光資源がないためそれ以外には観光客がない状況。
- ・今年3月、豊糠小中学校が廃校となり、校舎の有効活用による振興策が必要。
- ・平取ダム周辺地域の振興対策も今後検討していかねばならない。

○希望するアドバイス内容について

- (1) 旧豊糠小中学校校舎の有効活用による地域づくり
 - (2) すずらん群生地や重要文化的景観とダム湖などの観光資源を活かした地域振興策、
 - (3) 農林業振興による地域活性化策について助言いただきたいと思えます。
- ・参考資料として今年8月に国土交通省都市・地域整備局で行っている地域づくりインターンで当町に3週間ほど滞在した学生2人が考えた校舎の有効活用策を添付。

遠藤課長 アドバイザーの高橋先生には今回を入れて3回平取町に来てもらいアドバイスいただく。今回は平取町内の水源地域を中心に視察してもらい、地域の方との意見交換で地域の考えを参考にしながら、それに基づいて次回以降の水源地域の振興策等について助言いただくことになると思う。

今日は高橋先生に、平取町を見た感想と概要を聞いたうえでの感想や意見をお聞かせ願いたい。それを基に参加者から質疑を受けていきたい。

高橋先生 出身が北海道で、小学校1年まで札幌に住んでいた。両親は今、札幌在住。

高校まで青森、大学で茨城、その後仕事は3つ4つ変わる。今の仕事が一番長い、その前は旅行会社で、主に修学旅行の担当をしていた。その関係で長野県飯田市で平成8年に修学旅行での体験学習、農家民泊を行うという話があつて修学旅行生を連れて行ったのが縁で今の仕事についた。

現在の仕事の内容を紹介して参考にしていきたい。

南信州観光公社は第3セクターのような株式会社。筆頭株主は飯田市。飯田市は長野県と愛知県の県境で名古屋まで1時間くらい。

長野県の観光地としては上高地、松本城、諏訪湖、軽井沢が有名だが、すべて長野県の中央部から北側。諏訪湖から南側にある地域は観光客といっても素通りが多い。

飯田市は人口は10万人、面積650km²で有名な観光地はない。東京から飛行機はない、JRでも6時間半くらいかかる。どうやって観光客を呼ぶかと考え、13、4年前に観光

課の職員が修学旅行生を呼んでこようということになった。

長野県には多くの修学旅行生が来ているがバスで1時間くらいのところまでは来ないので、いろいろな体験メニューを考えた。体験メニューを考え、旅行会社にもって行き、役場が窓口となり、講師となる地元の人とつないだ。体験メニューを実施するのは地元の方、役場は調整役。

役場から旅行会社への売込みがあり、平成9年に100人の修学旅行生を連れて行った。地元の方の協力で体験メニュー（五平餅づくり）を実施。旅行会社の立場から見ると洗練されていないが、子どもたちが大変喜んでいて、それ以上に先生が喜んでいて。

学校から3時間ぐらいの体験ではなく農家に民泊したいとの話があり、役場をとおして依頼して、翌10年にはじめて修学旅行での民泊というものを実施した。一部地区では学校と直接話して民泊しているところはあったが、旅行会社が仲介して修学旅行の民泊を行うのははじめての取り組み。

観光施設を何千万、何億円かけてつくるのではなく、その地域の方が普段やっていることを提供して子どもたちや来てもらった人に喜んでもらう。

その地域にある長所を体験させてもらう。地域の方がそのことを教えてあげることが一番いい。

今日は朝から義経神社からはじまって町内いろいろ見てきた。アイヌ文化やすずらん群生地など見たが、地元の人からのちょっとしたエピソードや話で非常に興味をもつ。ここを利用して体験メニューを提供する場合は、素材的にはたくさんあるのかと感じた。文化的景観など、いろいろな話を聞きながら観光すると普通では気付かない体験ができる。地元の方の話が聞ける体験がしたいと思う。

長野ではりんごの摘果体験というのがあるが、中学生や高校生にやってもらうと農家の方のすごさを身にもって体験できる。農家が普段やっていることを普通にやってもらうことが学生たちにとってはとても新鮮なこと。

ただ集まって行う体験ツアーでは3,000円、食事付ツアーや1日一杯なら7,000～10,000円ぐらいが向こうでは普通。

宣伝は役場のホームページやチラシ、旅行会社を活用してお金をあまりかけなくても仕事の支障にならない程度でできるのかなと思う。

地元の何年、年十年の積み重ねが来た人にとっては新鮮に映る。

斉藤課長 水源地域の活性化のお手伝いをするのが仕事。何かを行うにも地元の皆さんが原動力となる。我々が何かすることはできないので、皆さんをサポートする。

偶然、私も高橋先生と同じで北海道旭川市出身。

このアドバイザー制度は、現地で一緒に考えて汗を流して実施していく。地域のやる気が大切。アドバイザー制度を活用して方向性やプランを検討。

この制度では、皆さんに先生からのヒントを汲み取ってもらい、とくに施設の有効利用、廃校利用は全国的にも少子化で多くなってきているが、何をやるかはっきりしていないとうまくいかない。廃校利用の制度については、少しかかわっているのでお手伝いはしやすい。

豊糠の賑わいをどうするかはアドバイザーと地元の方が考えてソフト事業を検討。ハードとソフトを連携させて展望をもった地域づくりを行ってほしい。皆さんが考えたビジョン

が実現できるよう行政としてもバックアップしていければと思う。

- 遠藤課長 今の高橋先生の話の中でも、その他のことでもかまわないので質疑、意見交換に入ります。
- 鈴木所長 全国を回ってみて、同じようなところでの例で、最低しておいたほうがいいものや失敗した例があれば教えてほしい。
- 高橋先生 全国を回っているわけではないので、飯田市の例で、果樹園が盛んな地域があつていちご狩りをはじめブルーベリーなどをはじめ活気が出てきている。それをしなければ生活ができないということではないが、楽しんでやりながら収入も上がっているような地域もある。失敗した例は、10年間やってきてあの事業はどうなったかなというものはあるが、比較的粘り強く続けている。
- 山田さん 平取町では高齢化が進みひとり暮らしや夫婦二人暮らしの高齢者が増えている。冬になると雪下ろしや買い物も不便な状態になっている。夏場は幌尻登山やすずらんなどでいろいろ人が来て利用してもらえと思うが、この辺の高齢者は自分の農地をもっていて夏場は畑で作物を作ったりしているが、冬場に高齢者の方が共同で生活できるよう地域の人で面倒をみるような施設利用はできないか。365日、この施設を利用すると考えるとそのようなものはどうか。
- 斉藤課長 公共施設を置けないところに廃校利用する考えもでてきている。収益を求められるシーズンは収益事業を、収益が見込めない時期は公共施設として利用するという柔軟な発想はいいと思う。
- 渡辺さん 修学旅行は地域、時期的に同じような感じか。
- 高橋先生 学校により違うが、小中学校は5月、6月、高校は10月、11月が多いかなという感じ。その他、林間学校のようなものは7月、冬は北海道へスキーに来ることも多い。
- 渡辺さん 修学旅行で来る場合、どのくらい的人数か。
- 高橋先生 中学校では100から150人くらい。高校は割と人数は多いが、クラス別だとバス1台で行動する。
- 渡辺さん 7月から9月は登山客などの利用が見込めるが、それ以外の時期はどのような人にどのようなことをするかが問題だと思う。グラウンドや体育館を利用した合宿などはどうか。
- 山田さん 今、北海道では地方空港ができたので、そこを利用してその周辺ということが多い。高校生の場合は、自分たちでテーマを決めて目的にあわせた体験をさせていることがある。高校生に主体性を持たせた形態になっている。二風谷にもアイヌ文化の関係で結構来ている。
- 高橋先生 たとえばチセを作るのにどのくらいかかるかわからないが、二風谷でチセづくりを体験することに意義がある。標津から研修に来ていた者が、地元に戻って鮭つりの体験事業を行っている。その地域ならではのメニューが重要。
- 山田さん 地方空港がない頃は千歳で降りて、二風谷を見学するというコースになっていた。昔は高校生に植林させて名前を付けてあつたが今はないと思う。そういうのをきちんとしていればまたリピーターとして戻ってくる可能性がある。
- 相田さん この地域でも札幌の小学校と交流していたことがある。地域総出でいろいろ体験させて札幌の人には好評だったが、受入れが大変で長続きしなかった。すべてボランティアで対応した。
- この地域に人が来るだけでもいいことかなと感じている。

- 高橋先生 チセづくりの体験など、1人7,000から8,000円はもらえると思う。それを年何回か行くくらいなら地域でも楽しみながらできるのではないかな。
- 遠藤課長 そのようなものを知らせるためにはどのような方法が良いかな。
- 高橋先生 ホームページなどもあるが、一番効果的な方法は対面で伝えるのがいいと思う。旅行会社の営業マンに直接話をしないと伝わらない。必ず興味を示す人がいる。体験メニューを体系立てて料金設定していれば、来るほうも計算しやすい。それでいくらかの収入がある。それを目標をたてて営業しようとするの大変だが、そうでなければやっている者も楽しんでできるのではないかな。
- 平取のいいところは、千歳から1時間半ぐらいで来れるところ。千歳便は便数が多く団体枠も多いので旅行費用も高くないので、そのような体験メニューがあれば間違いなく人が来ると思う。
- 山田さん 日本一のすずらん群生地があるが、そこでジュンブライドということで結婚式というのはいかがでしょうか。
- 高橋先生 すずらは半月くらいしか観賞できる時期がないというのがいい。本人たちの思い出に残ると思う。結婚式にはお金をかけるのでやり方によってはおもしろい。
- 野間さん この施設を維持していくにはどのくらいの経費が必要かな。
- 遠藤課長 使い方によって変わってくる。
- 高橋先生 携帯電話が使えないというのは逆にセールスポイントになる可能性はある。最近、うちの方で受入農家からメールばかりやって交流にならないという話が多くなってきている。携帯が使えないと地元との交流がしっかりできるということも考えられる。
- 鈴木所長 スポーツ合宿なんかはどうか。
- 高橋先生 合宿の場合は自炊することもあるが、食事の提供ができる方が良い場合があるので、受入体制がとれればスポーツばかりでなく、吹奏楽などの合宿などでもいいのではないかな。ただ、夏場になると思うので他の受入れとの調整をどうするかという問題はある。
- 遠藤課長 他になければこれで会議を終了します。



町内視察 H20.10.7

(2) 第2回水源地域対策アドバイザー派遣制度検討会概要

と き 平成20年12月11日(木)午後5時～6時30分

ところ 平取町役場 会議室

◇出席者

- ・アドバイザー：株式会社南信州観光公社 高橋 充 取締役支配人
- ・随行者：国土交通省水源地域対策課 斉藤一雅 課長
- ・オブザーバー：北海道 山岡主査、日高支庁 岸主査
- ・平取ダム水源地域振興協議会：相田会長、糸屋、元起、熊谷、渡辺、野間
- ・水源地域振興対策検討プロジェクト：水谷主幹
- ・事務局：遠藤課長、津川主幹、三浦主査

◇主な議題

- ・先進事例について
 - 黒松内ぶなの森自然学校
- ・実施事業、旧豊糠小中学校活用方法について

◇会議録(概要)

遠藤課長 (開会)

第2回目ということで1回目のアドバイス後の協議を経て今月の8日に先進地事例の黒松内町を視察しているので協議頂きたい。

相田会長 (相田会長挨拶)

川上町長 (川上町長挨拶)

斉藤課長 (国交省 斉藤課長挨拶)

津川主幹 (黒松内ぶなの森自然学校について報告)

(活用方法案について説明)

現段階で取り組みそうな事業として6項目載せている。全体の課題として、事業の運営体制や管理、指導員などの養成をどのような人をお願いするか、運営費や維持管理費はどうまかなうのかが大きな問題となる。来年度から取り組んでいけそうな事業として、教職員住宅6戸利用して短期滞在型農園がある。これは、遊休している農地を借りて週末などに来てもらい、自分の好きな農作物を作ってもらおう。課題としては、農地の確保と作業支援(不在時の除草などの管理)が必要。

2つめの農作業体験は、農家を作る作物の収穫の手伝い。実施にあたり受け入れ農家の確保が課題。

3つめの登山客受け入れは、改修はせずに床張り替え程度の簡易宿泊施設として開放してはどうか。問題は送迎と食事の提供。

4つめは合宿の誘致で、食事の提供と入浴施設が課題。

5つめの自然体験学習は、キャンプなど主に子供を対象にと考える。しかし、指導者の確保とメニュー開発が課題となる。

6つめの修学旅行生ホームステイは、農家にホームステイして自然体験と交流。課題はホームステイ先の確保。

- 遠藤課長 これらの中で1～2つでもできたらと考える。
庁舎内のプロジェクトで協議した基本の考えを資料に図式化した。廃校の現状は全国的な問題であり、ますます増加するのが現状である。実際の廃校利用の現状は3つに分類される。1つは観光客向けの宿泊・体験・研修など。2つめは地元住民向けの集会施設など。3つめは特定者向けで養護学校や高齢者障害者福祉施設となっている。用途の選択としては、その土地にあったもので利用しやすく、運営をどうするのかを考える必要がある。維持費はその維持管理ができる収入が望ましい。
具体的には叩き台にあげた短期滞在型農園などは教員住宅を利用しながら都会から来てもらい、すぐに取り組めるのではないかと考える。
- 相田会長 毎週来るのであれば雑草などの問題はないが、ある程度の管理支援をする必要はある。
- 糸屋さん 私の隣に住んでいた人はもう住宅を引き払ったが、その息子が札幌から毎週来て畑をやっていて、楽しんでやっているようだ。
- 津川主幹 もし豊糠の方達が協力して頂けるということであれば、年度内に募集してもいいと思っている。
- 糸屋さん いつでも来られるように住宅土地付きで活用できるような権利みたいなものを販売したらどうか。
- 高橋先生 みんな目的があって将来農業してみたいとか、田舎暮らししてみたいとかそういう目的がある人がいきなり土地買ってなどではなく、とりあえず自分に合っているかどうかで来るので、あとは価格設定をして地元の方の協力が得られるということであれば、農業を教えてあげるといった感じの出すと、需要はあるのではないかと。あとは価格設定など次第では来ると思う。
- 津川主幹 軌道にのるまでは町が窓口となってやらなければならないと思う。
- 渡辺さん 事業主体を決めておかないと、町がやった後に誰かと言っても来ないと思う。
- 野間さん 軌道にのってからではなく、軌道にのせないといけない。さきほどの分類でいくと、観光の分類になると思うが、町全体で考えたとき観光がいくつかあるが連携がとれてない。そう考えると、豊糠のポイントだけだと弱いと思う。全体として連携をとり長期的に豊糠小中学校の活用を話したほうがいいと思う。
- 遠藤課長 実現可能なものとして短期滞在型があるのかなと思っている。来年度に向けて取り組んでいきたいと思っている。次に農作業体験としては豊糠の廃校利用として直接結びつかないかもしれないが、いかがか。
- 相田会長 うちでは5月の連休から6月いっぱいくらいまではアスパラをやっているのですが、来たい人がいれば体験させることはできる。スイートコーンもやらなきゃならないのだが、10日間ぐらい収穫期間がある。そういうのを利用してという形では可能かと思う。
- 糸屋さん トマトは6月以降であれば10月くらいまで可能。時期によって赤さを変えて収穫は朝終わるので飛び込みで来ても収穫するトマトはない。農業体験か、収穫して食べてもらうとかによって、やり方が全然違う。
- 高橋先生 本来は学びや観光ありの農業体験学習の考え方で、私達が受けているのは主に5～6月に修学旅行で田植えやリンゴの摘果などで収穫の喜びを味わっている。そういうものをやる時など当然お礼で払うことになるが、1人2～3千円で大人数で来て収穫したものを持って帰られるという形をとっている。

- 相田さん 3つめの登山客受け入れは、山荘をつかって取水ダムまで行けるなどの特典があるといい。
- 元起さん 幌尻山荘は沢があるのですぐ行けない問題があるし、世話人がいないと危険でもあり無理。林道の通行の問題もある。
- 渡辺さん 基本的に宿泊と食事できる施設にして運営する人がいるかが重要だと思う。
- 遠藤課長 方針が決まれば、町としてある程度のお金はかけられると思う。登山客をターゲットにしてということは現実的だと思うが、元起さんの言うように案内人をつけての通行の問題はある。
- 野間さん 宿泊や食事がからむと常駐している人がいないと何もかもできなく、かなり本格的な管理を必要とする。人件費もかかるし片手間でできるものではない。
- 高橋先生 何回かイベントを組んでまずはやってみて、無理だとわかれば無理でもいいので、とりあえずやってみるのがいいのかと。何かをきっかけにしてやっていくのも必要だと思う。
- 遠藤課長 試験的な取り組みとして、イベントのようなことから始める事も検討して、運営方法などについても検討してお示しできればと思う。
- 次の合宿・自然体験・ホームステイについては、今話した運営の仕方をどうするかでやれるかどうか決まってくるのかと思う。登山の場合は7～9月に限定されるので、年間の利用という意味では有効かとも考えられる。
- 相田会長 1番とか2番など、なんとかやってみるといいかと思う。このままでは足踏みしてしまうので、来るかどうかわからないが、募集してみたらやるしかない。
- 遠藤課長 高橋先生の言ったようにやってみる事で得られることがあると思うので来年度に向けて実施する前提で内容を練って行きたいと思う。
- 高橋先生 団体誘致に関しては、やってみないと話が進まないところもあるが、世の中に形に表さないと話にならない。その形どこにバラ撒くかとなるのは私が教えるので、そういう意味では2番・5番・6番などは連動して可能性はある。いかに決定権がある人（修学旅行・バス会社）に働きかけるかがポイントとなる。二風谷アイヌ文化博物館に来ている添乗員に片っ端から渡すなどの方法もある。
- 遠藤課長 今までの意見と高橋先生のアドバイスも含めて加味し、課題はあるが叩き台に上がった中で実施に向けて内容を精査し、次回に協議していく方向にしたいと思う。
- 斉藤課長 必ずしも最初は廃校をどうにかしてそれが済んでからという事じゃなくても、とりあえずすぐに使える教員住宅を利用して、その取り組みとして廃校をどうしようかとクリアになっていくのではないかと思う。
- 熊谷さん 夏の間登山客など対応するが、携帯電話が使えなく非常時など命にかかわることもあるので、ぜひ町のほうで携帯電話を要望してほしい。
- 遠藤課長 来年度の事業で検討していて、不通の芽生・豊糠地区がクリアしなければならない地区であり、芽生地区については今後も要請していくことで進んでいる。豊糠地区については、国の補助等を使って地元負担しながら22年度を目処にやりたいと計画にのせたところである。
- 斉藤課長 現状として、北海道には国の制度を利用しても採算がとれるところがもうないというのが実情であり、19年度でも2件しか事業を行えなく今年度に至ってはまだ0件である。事業者や町の負担は非常に少ない良い制度であるが、それでも難しいというところである。ただ、総合通信局を通じてできる方向で関係者が尽力されていると認識が今回できている

ので、今年度来年度というのは難しいが可能性がない訳ではない。

遠藤課長 （閉会の挨拶）

次回、再度事務局でより詳細なものを練って議論して頂きたいと考えているのでよろしく
お願いしたい。



第1回水源地域対策アドバイザー派遣制度事前検討会 H20.10.7 於:旧豊糠小中学校



第2回水源地域対策アドバイザー派遣制度検討会 H20.12.11 於:平取町役場



第3回水源地域対策アドバイザー派遣制度検討会(報告会) H21.2.26 於:振内町民センター

(3) 第3回水源地域アドバイザー派遣制度検討会(報告会)概要

と き 平成21年 2月26日(木) 午後5時～7時

ところ 振内町民センター 集会室

◇出席者

- ・アドバイザー：株式会社南信州観光公社 高橋 充 取締役支配人
- ・随行者：国土交通省水源地域対策課 斉藤一雅 課長
- ・オブザーバー：北海道日高支庁 工藤主幹、岸主査
平取町議会 桜井副議長、山田議員
- ・平取ダム水源地域振興協議会：相田会長、福澤、元起、石谷、熊谷、丹野、畠中

- ・水源地域振興対策検討プロジェクト：鈴木課長、鈴木支所長、佐藤主幹、水谷主幹
- ・事務局：遠藤課長、津川主幹、三浦主査

◇主な議題

- ・水源地域振興策（案）について
 - 平成21年度の取り組みについて
- ・旧豊糠小中学校活用方法について

◇会議録（概要）

遠藤課長 本日忙しい中、お集まり頂きましてありがとうございます。

第3回の平取ダム水源地対策アドバイザー派遣制度の検討会を開催させていただきます。

本年度はアドバイザーを派遣頂くのはこれが最後ということでして、南信州観光公社の高橋さん、国土交通省水源地域対策課の斉藤課長がお忙しい中お越し頂きまして厚くお礼申し上げます。開催にあたりまして共有母体としての水源地域協議会の相田会長にご挨拶頂きます。

相田会長 みなさんこんばんは。大変忙しい時間の中で集まり頂きましてありがとうございます。今回アドバイザー派遣は最後となりますけれど、これまでのアドバイスと皆さんの知恵をもとに再度討議したいと思いますのでよろしくをお願いします。

遠藤課長 続きまして国交省の斉藤課長に一言お願いします。

斉藤課長 国土交通省の斉藤と申します。今回で3回目となり最後の打合せとなります。これまでの打合せを振り返ると皆様の平取町をなんとか発展させたいと、あるいは豊糠を元気にしたいと真剣な気持ちが伝わってまいりまして非常に前向きな姿勢を感じております。新しい取組を始めるには不安なども伴う訳で準備をして臨むということは当たり前ですが、それ以上に重要なのはやる気と熱意ではないかなと思っています。幸い平取町の皆さんはそれが漲っていると感じておりますので、国としてもできるだけバックアップさせて頂きたいと考えております。ぜひ来年度から具体的な行動のプランということで活発なご議論頂きまして高橋先生からのアドバイスも頂く事となりますので方向性を見つけて頂きたいと期待しております。

遠藤課長 北海道からオブザーバーということで、日高支庁から工藤主幹と岸主査が見えてますのでご紹介します。それと今日の出席メンバーについてお知らせしたいと思います。前回の協議会の中で承認を得まして、豊糠地区から石谷さんと畠中さんをメンバーとして加えております。オブザーバーとして平取町議会から桜井副議長と山田議員が加わっております。それでは協議事項の1番目の水源地振興策（案）として前回の協議会の中で方向性として合意したところですが今日は再度経緯も含めて来年の取組について説明して議論頂きたいと思います。

津川主幹 私のほうから水源地振興策について、平成21年度の取り組みについて説明いたします。

（平成21年度の取り組みについて説明）

- ・教員住宅6戸を利用して滞在型農園（まずは4戸の募集で）
- ・農地法の関係は農園事業方式を使えば法的縛りはなく問題はない
- ・インパクトも狙って100坪で募集

- ・住宅は全て3DKで使用料の関係は役場内で詰めていく
- ・3月31日までの1年間の利用
- ・利用料は従事する人の報酬を考えながら30万～50万で設定したいと考えている。
- ・募集に電気ガス水道は別途。携帯電話は使えないなどを募集要項に謳っていく。
- ・備品は冷蔵庫・炊飯器・ガスレンジ・ストーブは協議会で用意していく。
- ・テレビや寝具は持ち込んでもらう。
- ・地域の方に、野菜の作り方などを支援・指導していただく。
- ・特典として平取の特産品を年2回ほど宅配してはどうか。
- ・利用資格は平取町外、3大都市圏をメインターゲットにして、住宅等を保全して述べ15日以上滞在できること。
- ・3月中にはチラシなどを作って募集していきたい。

遠藤課長 具体的な方向性として高橋先生から「水源地域アドバイザー派遣制度報告書」ということでアドバイス頂きながら進めたいと思う。

高橋先生 今回で3回目となり私なりにまとめた報告書で、滞在型農園ということで私が感じているのは、北海道で自分で作った作物を楽しめるのは都会に住む人にとっては憧れることであり、私は50万円くらいでもいい感覚でいる。北海道に比べてネームバリューの低い長野県飯田市でやっているのは38万で、募集するとすぐ埋まってしまう。二風谷の博物館には修学旅行生が沢山来ているとのことなので、そこに来ている先生や旅行会社の人に図りかければ来ると思うし、場所についても空港から1時間程度ということで非常に近いと言える。あと2ヶ月3ヶ月ですが、実りのある形にして頂けたらと思う。

遠藤課長 前回までの検討会では、こういう方向で進めようとして確認と頂いたところだが、実施組織としては協議会を念頭に置いているところで、今後役割分担も出てくると思う。

山田議員 4戸の中で募集をかけて、一度見に来たいというリフォーム関係についてどのように考えているのか、来た場合の案内などの対応はどのように考えているのかと、金額については農業者関係に説明できる金額設定にしなければならない。それと、ボランティアで対応できる地元の人間ということだが豊糠としては他のメンバーも協力してもら方がいいのか、その辺も含めて考えてほしい。

遠藤課長 家賃については、町の施設でもあるので応分の家賃が発生すると思う。家はある程度修繕が必要になってくるとは思うが、先に見に来たい人がいれば案内することになるかと思う。農地の使用料は年間使える住宅を貸して、それに農地が付いてくるというイメージかと思うが他の農業者とトラブルが生じる心配があれば調整が必要だとは思う。

山田議員 遊休農地を豊糠地方で使うということで、他に平取町で遊休農地がたくさんある中でのことなので、平取町で企画したという事であればその辺を踏まえて対応して欲しいと思う。私(個人)としては、そういう形で遊休地を使うという対策であれば私達は参加できない。

相田会長 豊糠の学校施設が維持管理など含めて大変であれば、売る・壊すなどの考えがいいのかもしれないが、お金になるならないは別として豊糠に人が入ってくるだけでも心が豊かになるかなと思っているので、とりあえず来たらやってみようという考えでいる。

丹野委員 自分で草刈りをしたりとか、共通の農機具みたいなのが必要ではないか。1年しかいないのにブラシカッターなど用意させるのは無理では。住宅リフォームするのなら、農作業もするのでシャワーぐらい付けるべき。

相田会長 地域に入ってくるので仲良くしてくれれば、草刈りなどある程度協力できる。

福澤委員 地域に入ってくるのだからいろいろな協力しながら世話になる必要がある。

山田議員 ある程度煮詰まってきたら、豊糠地区の中で農作業の管理運営などの小委員会のようなグループをつくったほうが良いと思う。滞在期間は1ヶ月でも1年いてもいいのか。

津川主幹 他の町を見ると、5年間は継続していいという形をとっている。

高橋先生 地域にはいるにはお互い顔が見えないとなかなかうまくいかない。大々的じゃなくても年に何回か草刈りやトラクターの講習などのイベントなどやってあげると、結構楽しんでやると思うし、企画するほうも楽しいと思う。

山田議員 具体的にはいつから募集していつぐらいに締め切って人選するのか。

遠藤課長 具体的に詰めることはあるが、豊糠を中心とした部会を立ち上げながら3月中募集に向けて進めて行きたいと思うがよろしいか。

次に豊糠小中学校の活用方法について、前回の協議会ではさらに時間をかけて利用について検討していきたいという部分もあり、今想定できる活用案について資料を用意しているので説明して検討頂く。

津川主幹 (旧豊糠小中学校活用方法案について説明)

1. 宿泊体験研修施設
自然体験やキャンプ、スポーツ合宿施設として。施設整備が必要。指導者管理者の確保が必要。黒松内ではNPO法人が運営している。
2. 幌尻登山の拠点施設
登山客の宿泊施設として整備。運営方法や登山客の送迎の問題。道路の利用や管理の問題で難しいとも言える。オンシーズンの3ヶ月ほどしか活用できない。
3. 福祉施設
月3～4万ぐらいの貫気別やすらぎ寮のイメージで。雇用の場も生まれるが、豊糠の人だけでは埋まらない問題。
4. 産業施設
食品加工などの製造施設として利用。雇用も生まれる。
5. その他
一般公募により施設活用してもらおうなど。経費などもかかる可能性がある。

遠藤課長 前回の協議会でも資料に基づいて意見があり、地域的な要望や全町的な視点で見た場合などいろいろな活用が考えられる。もう少し時間をかけて活用案を検討して、また、この資料以外に案があれば伺って今後の議論としたい。

桜井議員 里親制度の事業化が可能になったとの話を聞いたが、事業化して舎の利用も可能なのか調べてほしい。

遠藤課長 実質的なスケジュールとしては、平成22年度の総合計画の計上を目指して方向性を決めることになる。

最後に総合的な感想を含めて高橋さんと斉藤課長からいただいて閉めたいと思う。

高橋先生 (アドバイザー挨拶)

斉藤課長 (挨拶)

遠藤課長 検討会ということで今日はこの辺で閉めたいと思います。ご苦労様でした。

3. 平取ダム水源地域振興協議会・水源地域振興対策検討プロジェクト開催状況

開催月日	会議名	内容	場所	備考
6月20日	水源地域対策検討プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトチームの設置 推進体制について スケジュールについて 重点検討事項について 	平取町役場	7人
10月1日	平取ダム水源地域振興協議会設立会議	<ul style="list-style-type: none"> 平取ダム水源地域振興協議会設立 水源地域の現状と今後の取り組みについて 	振内町民センター	12人
10月6日	水源地域対策アドバイザー事前打合せ	<ul style="list-style-type: none"> 平取町の概要について 	平取町役場	9人
10月7日	水源地域対策アドバイザー町内視察	<ul style="list-style-type: none"> 町内視察 	町内全域	6人
	第1回水源地域対策アドバイザー派遣制度事前検討会	<ul style="list-style-type: none"> 平取町の概要について 水源地域の現状と希望アドバイス内容について 	旧豊糠小中学校	16名
12月3日	水源地域対策検討プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 水源地域振興策の検討について 	平取町役場	7人
12月8日	平取ダム水源地域振興協議会廃校利用先進地視察	<ul style="list-style-type: none"> 黒松内町 ぶなの森自然学校視察 	黒松内町	7人
12月11日	第2回水源地域対策アドバイザー派遣制度検討会	<ul style="list-style-type: none"> 先進事例について 実施事業、旧豊糠小中学校活用方法について 今後の取り組みについて 	平取町役場	14人
2月3日	水源地域対策検討プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 平取ダム水源地域振興策について 旧豊糠小中学校校舎の活用について 	平取町役場	5人
2月21日	平取ダム水源地域振興協議会	<ul style="list-style-type: none"> 水源地域振興策について 旧豊糠小中学校活用方法について 	振内町民センター	11人
2月26日	第3回水源地域対策アドバイザー派遣制度検討会(報告会)	<ul style="list-style-type: none"> 水源地域振興策について 旧豊糠小中学校活用方法について 	振内町民センター	21人

4. 平取町の水源地域振興方策

(1) アドバイザーからの助言で認識（再確認）したこと

- ・新千歳空港から車で1時間から1時間30分の距離にあることは魅力的である。
- ・アイヌ文化、文化的景観、農業体験など平取町には観光資源として素晴らしいものが多い。
- ・極端に住民の負担が増えるような事業は長続きしない。その地域の方が普段やっていることを提供することで、都会からの観光客を呼び込むことができる。
- ・立派な施設などの箱物を整備しなくても、その地域にある長所を体験してもらったり、地域の方がそのことを教えてあげることが一番いい。
- ・地域資源の掘りおこしと町内のネットワーク化の必要性。

(2) 平成21年度の取り組み

- ・滞在型農園を試行的に実施（別紙ちらし）
 - 旧教職員住宅を利用し、近くに農園を確保して都会から人を呼び込み、地域の活性化を図る。
 - 事業実施状況（応募状況、効果）等をみながら、将来の本格実施に向けた検討を行う。

(3) 将来的な取り組み

- ・旧豊糠小中学校校舎の活用策の検討
 - 地域的な要望や全町的な視点で見て、もう少し時間をかけて活用案を検討していく。
具体的な案として、①宿泊体験研修施設、②幌尻登山の拠点施設、③福祉施設、④産業施設、⑤その他（一般公募による施設活用等）
- ・農業体験や自然体験をメニューとした民泊による地域活性化の検討
- ・自然環境や地域資源を活用した新たな観光産業の創出の検討
- ・地域の人材、資源のネットワークの構築

平取ダム水源地域振興協議会委員名簿

No.	住所	氏名	備考
1	豊糠 23-4	相 田 芳 訓	会 長
2	芽生 53-3	高 瀬 哲 朗	
3	貫気別 232-3	丹 野 信 一	
4	振内町 116-3	福 澤 一 光	
5	本町 52-3	山 田 喜代太	
6	岩知志 45-6	糸 屋 新一郎	
7	旭 54-26	白 石 晴 治	
8	振内町 31-3	元 起 昭 夫	
9	振内町 27-27	渡 辺 隆 之	副会長
10	豊糠 42-5	熊 谷 厚 子	
11	振内町 90-7	野 間 克 実	
12	豊糠	石 谷 禎 紹	
13	豊糠	畠 中 美基朗	
14	本町	桜 井 幹 也	オブザーバー
15	長知内	山 田 一 明	オブザーバー

水源地域振興対策検討プロジェクトメンバー

No.	職名	氏名	所属
1	リーダー	遠 藤 桂 一	町づくり振興課長
2	メンバー	松 本 周 次	総務課長
3		鈴 木 茂	生涯学習課長
4		鈴 木 伸 子	振内支所長
5		市 川 一 之	貫気別支所長
6		谷 山 勝 広	建設水道課主幹
7		佐 藤 和 三	生涯学習課主幹
8		水 谷 安 男	町づくり振興課主幹
9		事務局	津 川 貴 晃
10	三 浦 明 徳		町づくり振興課主査